

# 2015年3月期 第2四半期 決算説明資料

---



KANEMATSU CORPORATION

---

2014年11月7日

1.	2015年3月期第2四半期決算概要	・・・	3
2.	中期経営計画及びVISION-130の進捗	・・・	11
3.	Appendix	・・・	19
4.	補足資料	・・・	23

1

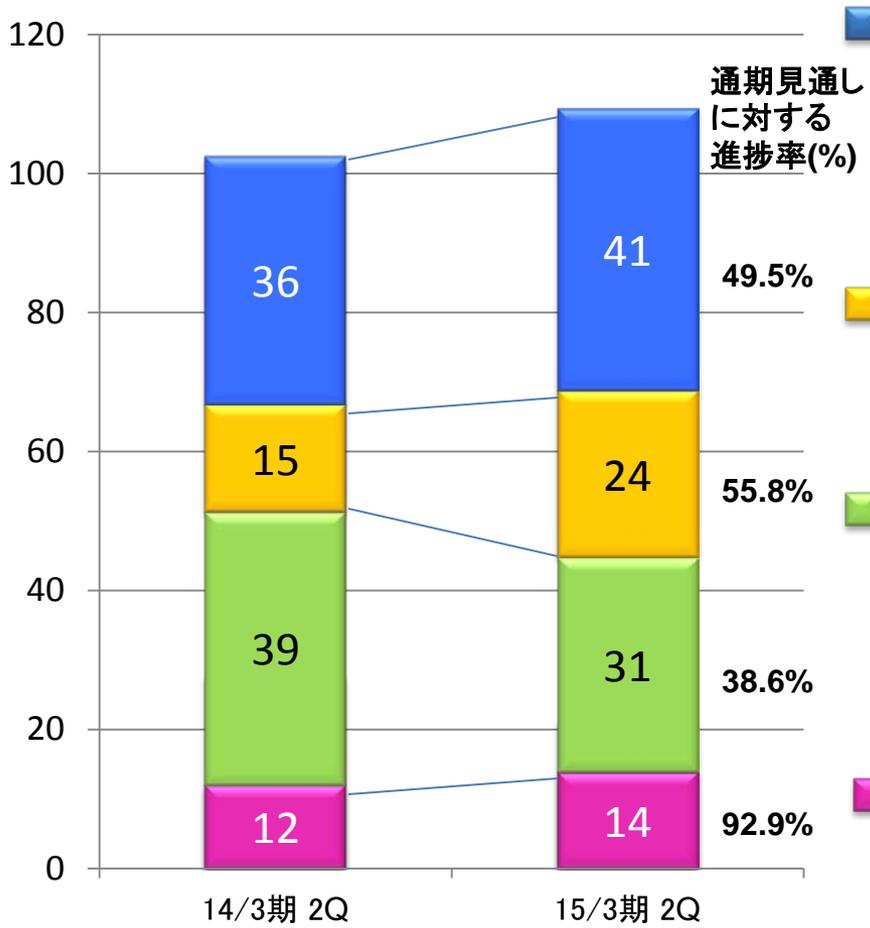
## 2015年3月期第2四半期決算概要

前年同期比は売上総利益・営業利益を除き微減ながら、  
通期見通しに対する進捗は順調。

(単位:億円)	14/3月期 第2四半期 実績	15/3月期 第2四半期 実績	15/3月期 見通し	進捗率
売上高	5,376	5,344	11,500	46.5%
売上総利益	430	440	885	49.7%
営業利益	105	111	220	50.4%
経常利益	110	106	205	51.5%
当期純利益	63	61	110	55.4%
1株当たり 当期純利益	14円97銭	14円50銭	26円19銭	-

**電子・デバイスセグメントおよび食料セグメントが全般的に好調。**

(億円)



- **電子・デバイス(前年同期比 +5億円)**  
 半導体部品・製造装置事業は、旺盛なスマートフォン関連需要や車載およびアミューズメント向け製品取引の増加を背景に好調に推移。電子機器・電子材料事業は、イメージング機器等の輸出が好調。ICT・モバイルソリューション事業は、顧客のニーズに合致した販売プランを活用し、堅調に推移。
- **食料(前年同期比 +9億円)**  
 畜産事業は、需要増および相場の堅調推移を受け、全般的に好調。食糧事業は、穀物取引、飼料取引ともに順調に推移。
- **鉄鋼・素材・プラント(前年同期比 ▲8億円)**  
 プラント事業は、東南アジアにおけるプラントインフラ取引が好調。鉄鋼事業は、主力の油井管事業においてオフショア掘削の回復遅れが影響しているものの、油井管加工事業は順調に生産量伸長。エネルギー事業は、天候不順による消費減退が影響して石油製品の販売が減少。
- **車両・航空(前年同期比 +2億円)**  
 航空・宇宙事業は、航空機部品取引が順調。車両・車載部品事業は、欧米・アジア向けを中心として二輪・四輪車用部品取引が堅調に推移。

自己資本の積上げなどにより、財務指標は着実に改善。

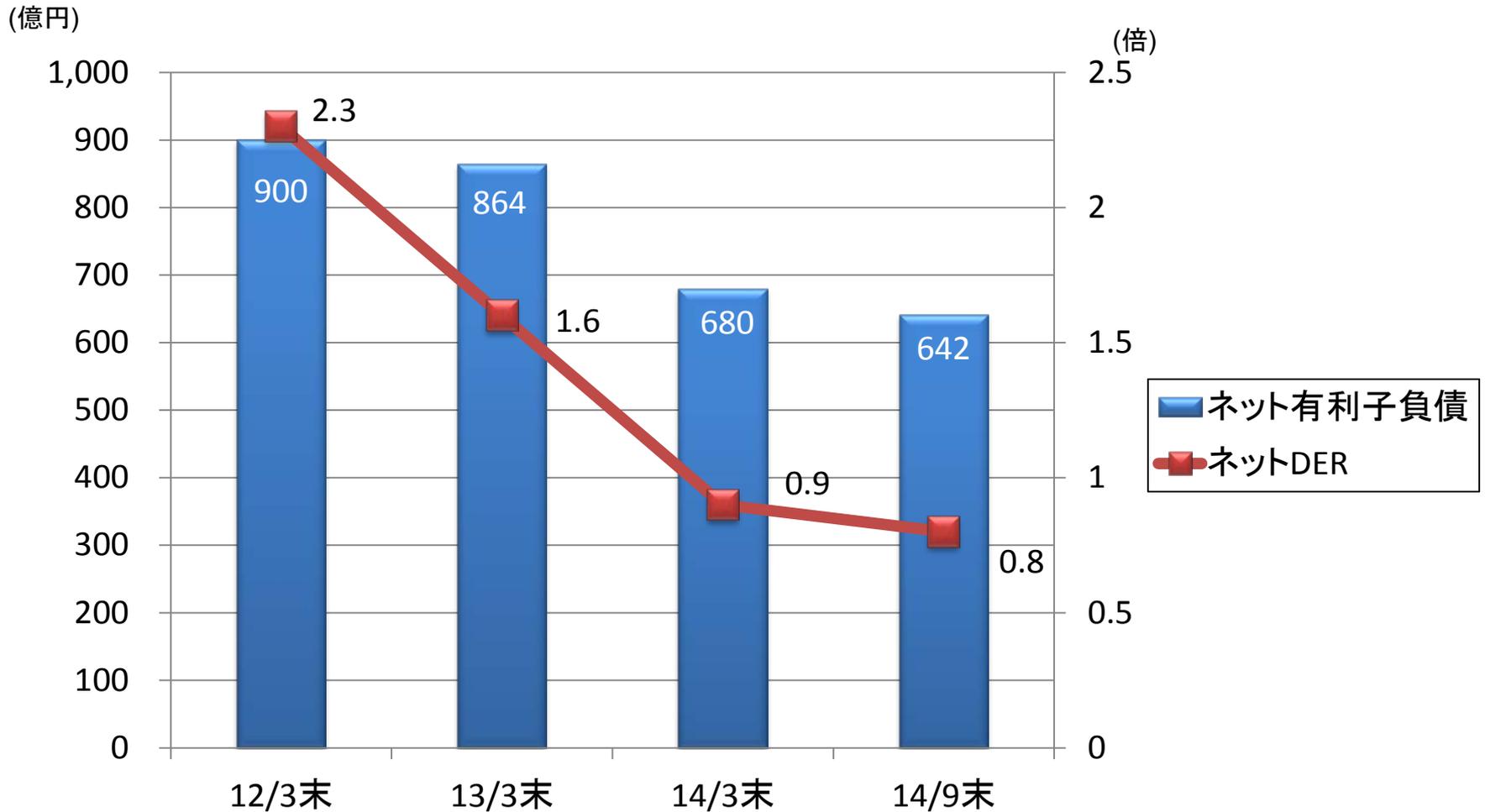
(単位:億円)	2014年 3月末	2014年 9月末	増減額	増減率
総資産	4,285	4,243	▲42	-1.0%
純資産	962	1,030	68	7.0%
自己資本(注1)	717	782	65	9.2%
自己資本比率(注2)	16.7%	18.4%	+ 1.7pt	-
グロス有利子負債	1,419	1,322	▲97	-6.8%
ネット有利子負債	680	642	▲38	-5.6%
ネットDER(注3)	0.9倍	0.8倍	▲ 0.1pt	-

注1: 自己資本=純資産-少数株主持分、注2: 自己資本比率=自己資本/総資産

注3: ネットDER=ネット有利子負債/自己資本

# ネット有利子負債とネットDER推移

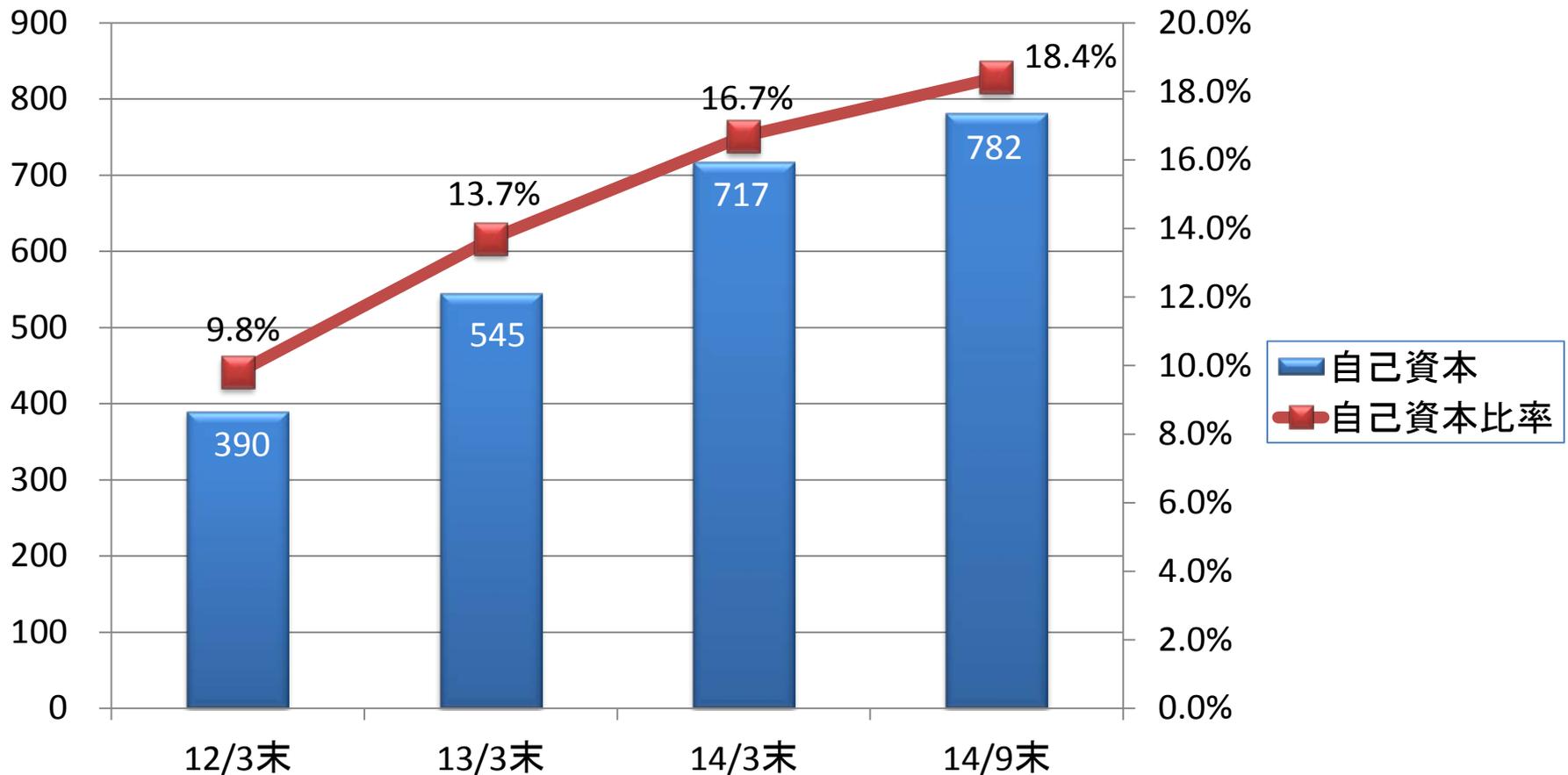
ネットDERは1倍を切る水準を維持。



# 自己資本と自己資本比率推移

四半期純利益による利益剰余金の積上げなどにより、自己資本比率は着実に改善。

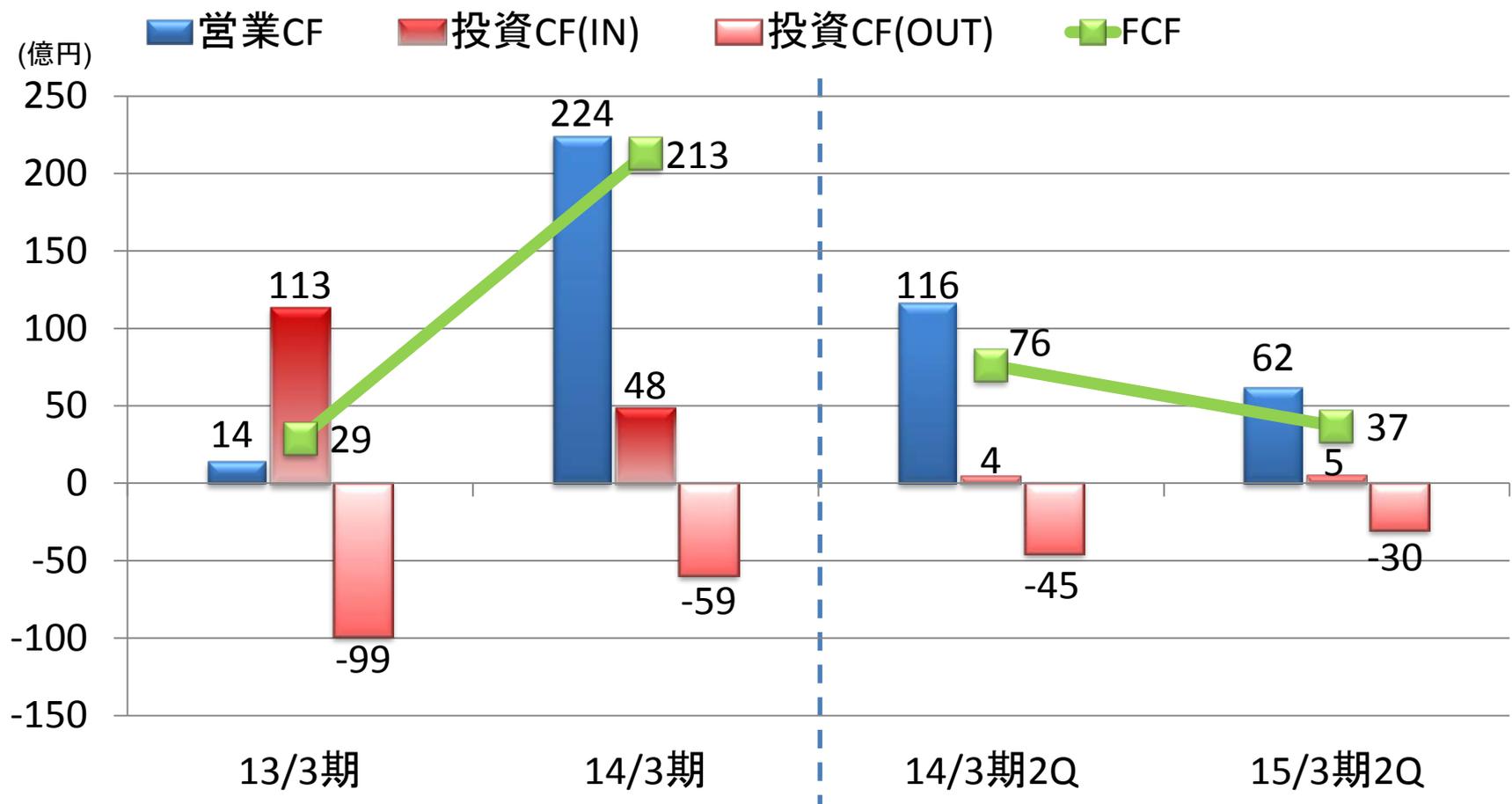
(億円)





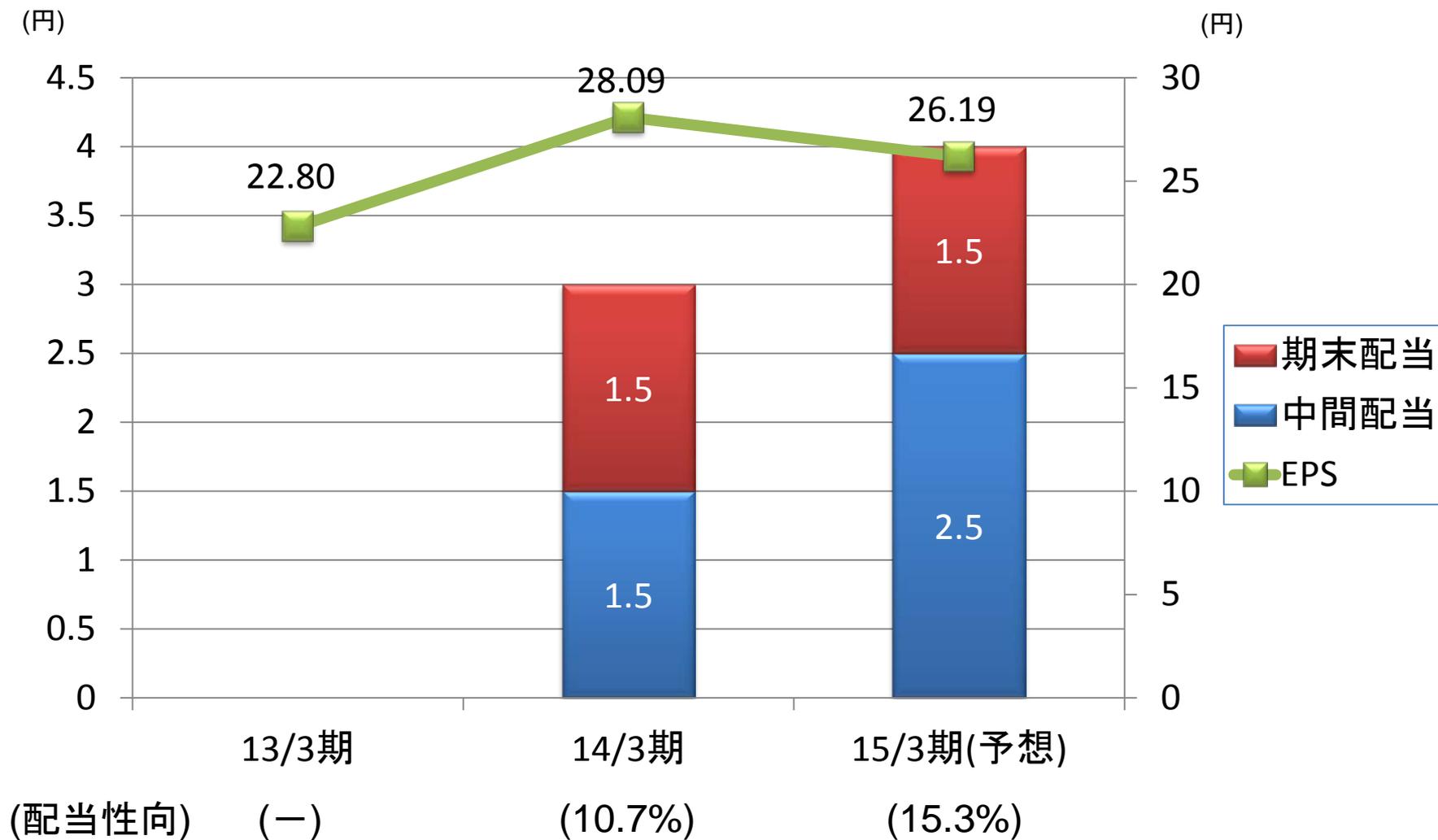
# 2015年3月期第2四半期 フリーキャッシュ・フロー

営業CF: 営業利益の積上げ等により62億円のキャッシュイン。  
 投資CF: 有形固定資産の取得等により25億円のキャッシュアウト。  
 ⇒営業CFから得られた資金を元に新規投資を行っており、FCFはプラスを維持。



# 配当の状況

125周年記念配当1円を含む2.5円の間配当を実施。年間配当予想は4円。



2

中期経営計画 及び VISION-130の進捗

# 定量見通し

5年後までに当社グループの収益力を現状の1.5倍へ。

(単位:億円)	2014/3月期 実績	2015/3月期 計画	2016/3月期 計画	Vision-130 2019/3月期
売上高	11,145	11,500	12,000	-
売上総利益	864	885	930	-
営業利益	198	220	230	-
経常利益	202	205	220	250~300
当期純利益	118	110	120	150
連結ネットDER	0.9	1倍台	1倍台	1倍台

# VISION-130～主要重点分野～

「強み」を有する主要重点6分野において、事業投資などが着実に進捗。

分野	主な地域	内容
① ICTソリューション	日本・アジア	システム事業の拡大と、サービス・サポート事業の効率化
② モバイル	日本	M&A等による規模の拡大
③ アジアの食市場	アジア	提案・製造・供給ワンストップ展開と、バリューチェーンインフラの構築
④ 北米シェール市場	北米	油井管等、製造・加工・販売バリューチェーンのさらなる拡大
⑤ グローバル・モータリゼーション	北米・新興国	グローバル自動車市場でのソーシング・技術開発・ロジスティクス強化
⑥ 日系メーカー等の海外進出	北米・新興国	日系メーカー海外進出での協業、海外進出支援

## ノースペット社買収

**北海道でペットフード製造事業に参画**  
 プレミアムフード・スナックでペット市場と地域社会に貢献します



### ノースペット社とは

北海道夕張郡に工場をもつ昭和62年  
 設立の老舗ペットフード製造会社。  
 地の利を活かし、海外でもグルメな食材と  
 して認知度が高い「北海道」ブランドの  
 プレミアムペットフード・スナック  
 を製造販売する。



充実した工場設備

### 今後の戦略

「北海道」ブランド力や  
 日本の安心・安全な品質を活かし、  
 香港、台湾、タイなどアジアを中心に  
 積極的な海外展開を行う。



ノースペット社の  
 犬・猫用スナック

## KGAR航空機用循環部品取引の拡大

### 民間航空機用循環部品事業を拡大

既存のボーイング社B737型に加え、エアバス社A320型向けの部品取扱いも開始

#### 交換修理取引の概要



#### KG Aircraft Rotables (KGAR)とは

アイルランドにある子会社。  
 ボーイング社B737型機向けを中心に、1万品目にのぼる民間航空機用循環部品を英国内倉庫に保有。  
 循環部品の交換修理事業、部品販売事業、リース事業を行う。  
 24時間365日供給可能なサポート体制を構築しており緊急の部品供給ニーズにも迅速に対応。

#### 今後の戦略

世界の航空機市場は、運航機数が向こう20年間で約2倍に増加する見通しが示されている。

幅広い支持を得ているエアバス社A320型機向け循環部品をラインナップに取り揃えることで、お客様の多種多様なニーズにも対応。  
 これまで培ったノウハウを活かし、今後も更なる事業基盤の拡大を図る。



# VISION-130～主な事業投資など③～

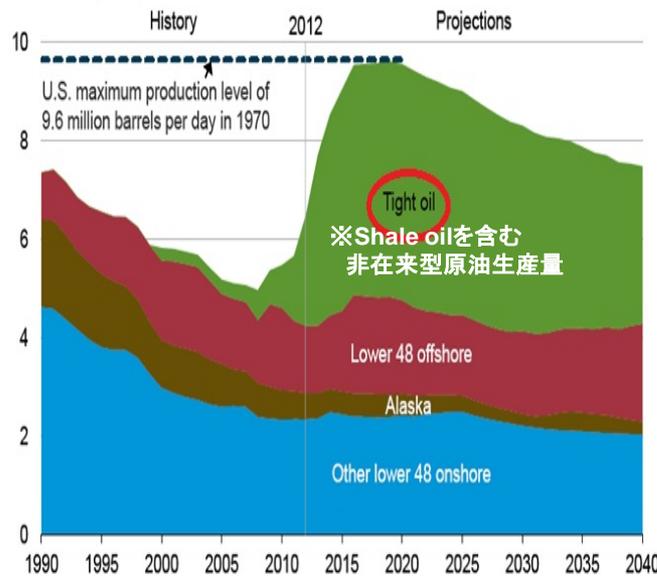
## 北米シェール市場

**2016年にテキサス州ウォーラーに第二工場稼働予定  
設備増強し、更なる商量の拡大を目指す**



Growing tight oil and offshore crude oil production drive U.S. output close to historical high

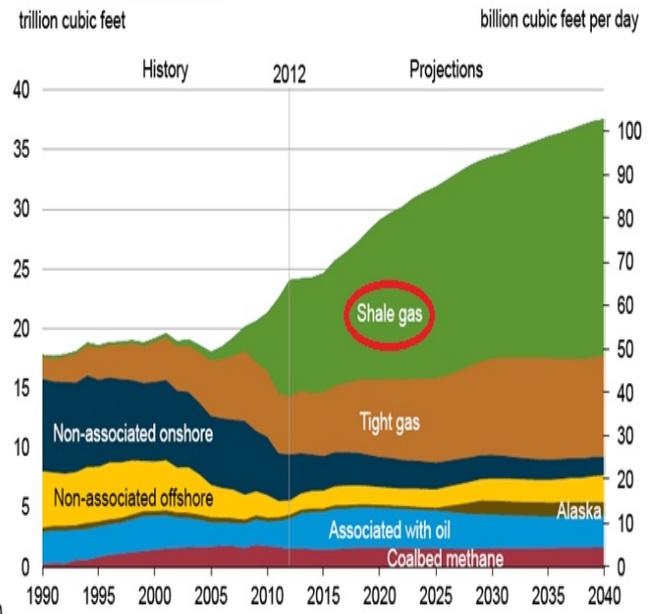
U.S. crude oil production  
million barrels per day



Source: EIA, Annual Energy Outlook 2014 Early Release

U.S. shale gas leads growth in total gas production through 2040 to reach half of U.S. output

U.S. dry natural gas production  
trillion cubic feet



Source: EIA, Annual Energy Outlook 2014 Early Release



第2工場地図



## 再生可能エネルギービジネス

再生可能エネルギービジネスを通じ、  
地球環境の長期的な保全に貢献



2013年10月、総出力54MWのサンロレンソ風力発電所のフルターンキー契約、及び海底電力ケーブルの敷設・埋設工事込み納入契約を受注。  
2014年10月時点で風車は20基完成(総数27基)と、2015年2月の完工を目指し、鋭意建設中。

風力発電ビジネスを再生可能エネルギービジネスにおける主要分野と位置付け、引き続き優良風況国において積極的に拡大。

【風力発電所建設予定地】  
フィリピン共和国ギマラス島サンロレンソ地区

## 兼松日産農林(KNN)に対するTOB

資本関係をより強固なものとし、  
KNNの監視カメラ事業と兼松のICT事業とのシナジーを確立する



KNNが取り扱う韓国サムスン製  
映像監視機器

 兼松日産農林株式会社

 兼松株式会社

### TOBの目的

両社の資本関係をより強固なものとし、KNNの監視カメラ事業と兼松の電子・デバイス部門との協業による、両社のより一層の事業基盤の強化と企業価値の向上を目指す。

また、東京五輪も控え、今後、需要の増加と事業の多角化が見込まれる監視カメラ市場において、これまで両社が培ってきたノウハウを活かし、一体となって市場の伸長に対応することで更なる収益の拡大も目指す。



3

# Appendix



# 兼松グループの事業概要

セグメント	主要な事業	主要取扱商品	主要グループ会社
電子・デバイス	半導体部品・装置	半導体・液晶パネル及び製造装置、電子モジュール・部材	兼松エレクトロニクス 兼松コミュニケーションズ 日本オフィス・システム
	電子機器・電子材料	プリンター及び関連機器、リチウムイオン電池制御用モジュール	
	ICT・モバイル	情報・通信関連機器及びサービス、携帯通信端末、モバイルインターネットシステムサービス	
食料	食品	缶詰・冷凍・ドライフルーツ、コーヒー、ココア、砂糖、胡麻、落花生、雑豆、ワイン、加工食品	兼松新東亜食品 兼松アグリテック 兼松ソイテック ノースペット
	畜水産	畜産物、水産物	
	穀物・飼肥料・ペット用製品	小麦、大麦、米、コーン、大豆、小麦加工食品、飼料、牧草、肥料、ペットフード、ペット用品	
鉄鋼・素材 ・プラント	鉄鋼貿易	各種処理鋼板、シームレスパイプ	Steel Service Oilfield Tubular Benoit Premium Threading 兼松トレーディング 兼松ペトロ 兼松ケミカル 兼松ウェルネス 兼松ケージーケイ
	特殊鋼貿易	ステンレス、特殊鋼線材・条鋼	
	国内鉄鋼・鉄鋼原料	鉄鋼製品全般、鉄鉱石、コークス	
	原油・石油製品・ガス	原油、石油製品、LPG、排出権ビジネス	
	機能性化学品、ライフサイエンス	リチウム電池原料、太陽電池関連部材、医薬品・医薬中間体、機能性食品素材、栄養補助食品	
	プラント・船舶	各種プラント、ODA案件、光ファイバー、電力・通信プロジェクト、船舶、船舶用機材	
	工作機械・産業機械	工作機械、産業機械	
車両・航空	車両・車載部品	二輪車、四輪車、車載部品、鋳鍛造部品、建設機械	兼松エアロスペース 新東亜交易 KG Aircraft Rotables
	航空宇宙	航空機・ヘリコプター及び部品、衛星・宇宙関連製品	

# 関係会社および従業員の状況

## 1. 主要連結対象会社の売上高

(億円)	事業	持分比率	2013年9月期	2014年9月期	増減額
兼松エレクトロニクス	ICTソリューション	58.28%	327	293	-34
兼松コミュニケーションズ	モバイル	100%	596	609	13
兼松新東亜食品	食品・畜水産	100%	134	137	3
兼松アグリテック	飼料酪農	100%	72	59	-13
兼松トレーディング	国内鉄鋼・鉄鋼原料	100%	198	208	10
兼松ケージーケイ	工作機械・産業機械	97.90%	185	196	11
兼松ペトロ	石油製品・ガス	100%	758	807	48
兼松ケミカル	機能性化学品	100%	92	88	-4
新東亜交易	商社	100%	528	495	-33
兼松エアロスペース	航空機・防衛機器	100%	24	18	-6
Kanematsu USA Inc.	海外現地法人	100%	502	481	-21

## 2. 従業員の状況

(人)	2014年3月末	2014年9月末	増減
単体	800	827	27
連結子会社	4,947	5,016	69
合計	5,747	5,843	96

※従業員は就業人員数

(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む)

# 関係会社の状況

## 1. 連結会社の黒字・赤字会社数推移状況

(単位:社)

(社数)	2013年9月期					2014年9月期					前年同期比
	連結		持分		合計	連結		持分		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字会社	29	28	9	11	77	28	27	9	10	74	-3
黒字比率	76.3%	58.3%	69.2%	78.6%	68.1%	77.8%	58.7%	81.8%	76.9%	69.8%	1.7%
赤字会社	9	20	4	3	36	8	19	2	3	32	-4
合計	38	48	13	14	113	36	46	11	13	106	-7

## 2. 連結会社の黒字・赤字額推移状況 (連結調整を加味しない単純合算ベース)

(単位:億円)

(億円)	2013年9月期					2014年9月期					前年同期比
	連結		持分		合計	連結		持分		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字額	30	10	2	1	43	28	8	3	1	40	-3
赤字額	-0	-3	-1	-0	-4	-0	-3	-0	-0	-4	0
合計	30	7	-0	1	39	28	5	2	1	36	-2

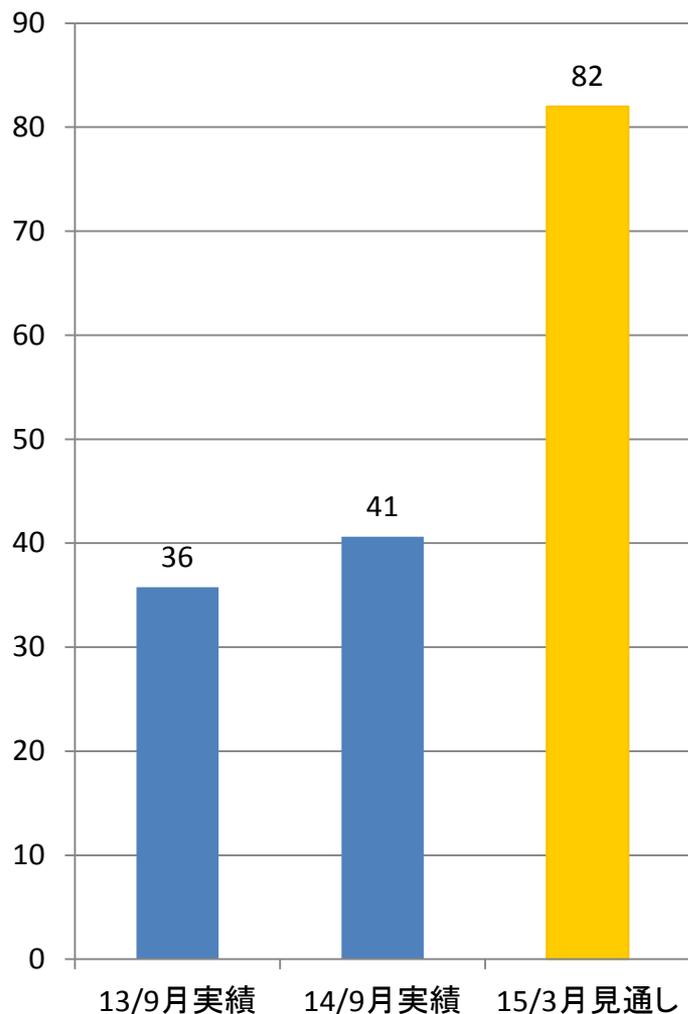
4

## 補足資料

# 2015年3月期見通し セグメント別

(単位：億円)	2015年3月期	2015年3月期	進捗率
	第2四半期実績	通期見通し	
売上高(外部売上高)	5,344	11,500	46%
電子・デバイス	1,265	2,900	44%
食料	1,514	3,250	47%
鉄鋼・素材・プラント	2,242	4,700	48%
車両・航空	310	630	49%
その他(含む調整額)	13	20	-
営業利益	111	220	50%
電子・デバイス	41	82	50%
食料	24	43	56%
鉄鋼・素材・プラント	31	80	39%
車両・航空	14	15	93%
その他(含む調整額)	1	0	-

営業利益：億円



(億円)	13/9月実績	14/9月実績	15/3月見通し
売上高	1,263	1,265	2,900
売上総利益	208	208	427
営業利益	36	41	82

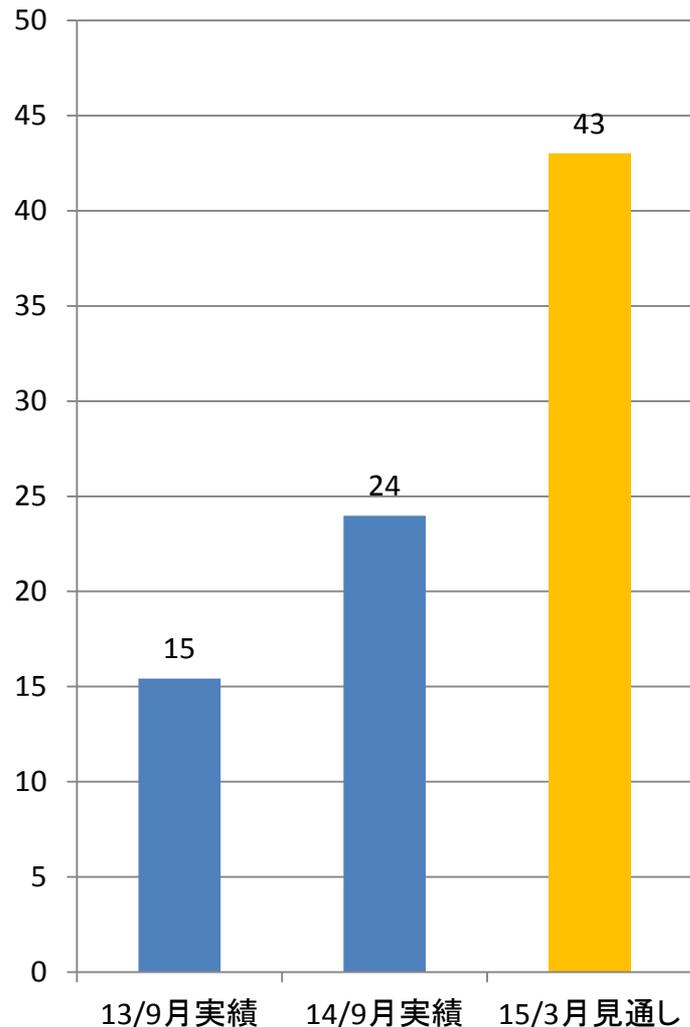
## 2014/9月実績のポイント

半導体部品・製造装置事業は、旺盛なスマートフォン関連需要や車載およびアミューズメント向け製品取引の増加を背景に好調に推移。電子機器・電子材料事業は、イメージング機器等の輸出が好調。ICT・モバイルソリューション事業は、顧客のニーズに合致した販売プランを活用し、堅調に推移。

## 2015/3月見通し

半導体部品・製造装置事業は計画通り推移する見通し。電子機器・材料事業は、OEMビジネスや基板およびタッチパネルメーカー向け材料が好調。ICT・モバイルソリューション事業も計画通りに推移する見通し。

営業利益: 億円



(億円)	13/9月実績	14/9月実績	15/3月見通し
売上高	1,567	1,514	3,250
売上総利益	62	74	141
営業利益	15	24	43

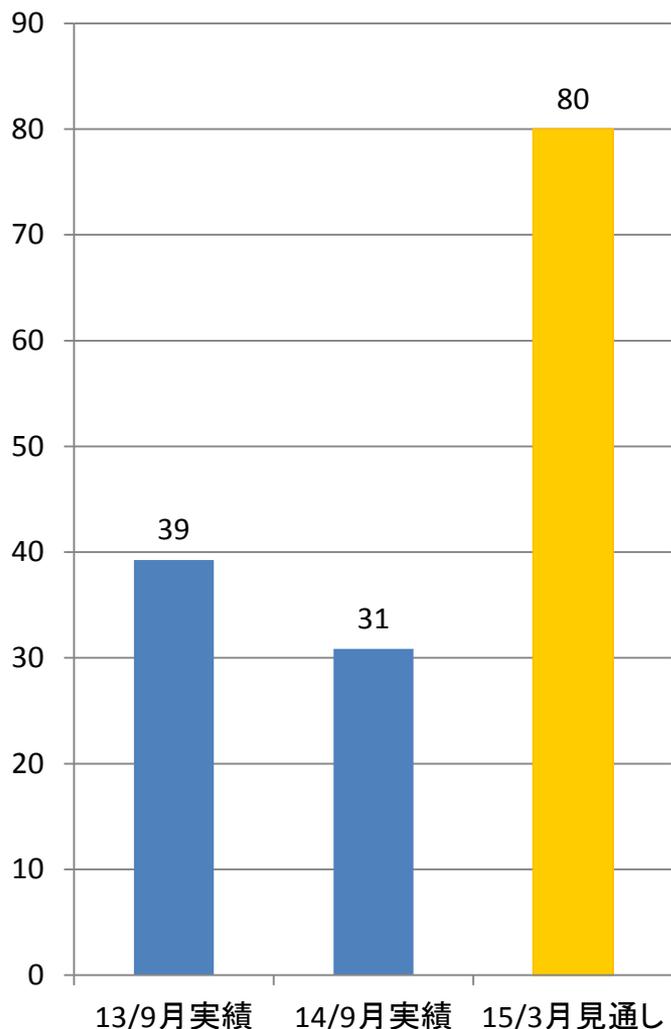
## 2014/9月実績のポイント

畜産事業は、需要増および相場の堅調推移を受け、全般的に好調。食糧事業は、穀物取引、飼料取引ともに順調に推移。

## 2015/3月見通し

畜産事業は引き続き旺盛な需要から堅調に推移する見通し。食糧事業は飼料の国内需要減で若干苦戦する見込みだが、ペット事業において業容の拡大、商量増を図る予定。食品事業は円安による収益圧迫が予想される。

営業利益：億円



(億円)	13/9月実績	14/9月実績	15/3月見通し
売上高	2,220	2,242	4,700
売上総利益	117	114	245
営業利益	39	31	80

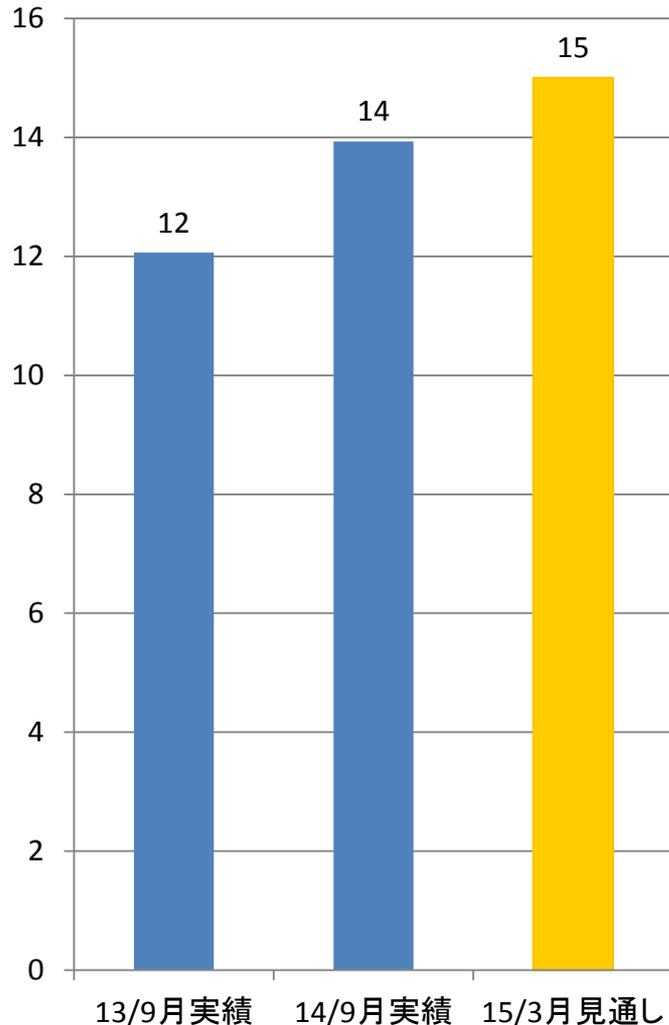
## 2014/9月実績のポイント

プラント事業は、東南アジアにおけるプラントインフラ取引が好調。鉄鋼事業は、主力の油井管事業においてオフショア掘削の回復遅れが影響しているものの、油井管加工事業は順調に生産量伸長。エネルギー事業は、天候不順による消費減退が影響して石油製品の販売が減少。

## 2015/3月見通し

シェール関連の油井管加工事業は比較的順調だが、オフショア向けは開発の回復遅れにより低調に推移する見込み。エネルギー事業は、原発再稼働の動静にも注視が必要。工作機械・産業機械は下期の回復に期待。

営業利益：億円



(億円)	13/9月実績	14/9月実績	15/3月見通し
売上高	290	310	630
売上総利益	34	38	62
営業利益	12	14	15

## 2014/9月実績のポイント

航空・宇宙事業は、航空機部品取引が順調。車両・車載部品事業は、欧米・アジア向けを中心として二輪・四輪車用部品取引が堅調に推移。

## 2015/3月見通し

北米市場、欧州市場ともに大型二輪、並びに四輪車の生産・販売台数が堅調に推移しており、部品商売もその流れに乗り順調推移と予想。航空機部品・循環部品取引も引き続き堅調に推移する見通し。

### 見通しに関する注意事項

本説明会・資料における当社グループの今後の計画・見通し・戦略等、将来に関する記載は、当社が現時点において把握可能な情報をもとに判断したものであり、これらは様々なリスクや不確実性が内在しております。従って、経営環境の変化、未知のリスクの顕在化、およびその他様々な要因により、実際の業績等の結果は大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

なお、表示の数値は、億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

**兼松株式会社**

**KANEMATSU CORPORATION**